

先催県における大会愛称・スローガンの制定状況

開催県	青森県	滋賀県	佐賀県	鹿児島県
開催年	2026年 (令和8年)	2025年 (令和7年)	2024年 (令和6年)	2023年 (令和5年)
愛称		わたSHIGA輝く国スポ・障スポ		
趣旨等	青い空、青い海や湖、青い山並など美しく自然に恵まれた青森県で、国スポに参加するすべての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。	選手、ボランティアをはじめ、県民、来県者など滋賀県で開催する両大会に関わる全ての人々が、様々な場面で主役として光り輝き、夢や感動、連帯感を共有できる大会を目指します。	名称が国民スポーツ大会に変わり、佐賀大会がスポーツ大会としての始めての本大会になります。 名前が変わるだけでなく、大会をより良いものに変えていきたいと考え、「スポーツだからできること」にスポットを当てた『新しい大会』を目指していきます。	世界有数の活火山である桜島や明治維新を成し遂げた偉人に象徴される熱く情熱的な鹿児島。 熱く、燃えるような感動を呼び起こす国体を目指します。
スローガン		湖国の感動 未来へつなぐ	新しい大会へ。 すべての人に、スポーツのチカラを。	熱い鼓動 風は南から
趣旨等	縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。	「琵琶湖」を擁する湖国滋賀で生まれた感動が、両大会に関わる全ての人々の心に刻まれ、明日への活力、未来への希望として将来にわたって引き継がれるようにとの願いを込めています。	新しく生まれ変わるスポーツ大会をイメージし、シンプルかつ率直に伝わるような形にしました。	熱戦を繰り広げるアスリート達の熱い鼓動と会場に響きわたる歓声が、鹿児島から南の風に乗って全国に広がってほしいという思いが込められています。

開催県	栃木県	三重県	茨城県
開催年	2022年 (令和4年)	2021年 (令和3年)	2019年 (令和元年)
愛称			
趣旨等	「いちご」の生産量48年連続日本一の栃木県。「いちご国体」で行われる国体に参加するすべての人々が、県民の心のこもった様々なおもてなしに出会い交流を深めることで新たな夢や感動が生まれることを目指します。	「とこわか（常若）とは、「いつまでも若々しいこと。いつまでも若いさま。」を表現した言葉で、県民や来訪者が活力に満ち、元気になるようにとの願いを込めています。	選手やボランティアをはじめ、両大会に参加するすべての人々に、活気にあふれ、いきいきと活躍できる夢のあるスポーツの祭典のすばらしさを感じていただきたい、という想いを込めています。
スローガン	夢を感動へ。感動を未来へ。	ときめいて人 かがやいて未来	翔べ 羽ばたけ そして未来へ
趣旨等	アスリート達が夢に向かって突き進む姿は、大会に参加する全ての人に感動を与えます。その感動をレガシーとして、未来の人づくり、地域づくりにつなげていきたいという願いがこめられています。	大会がきっかけとなってすべての人が夢と感動、喜びと感謝を味わい、大会後も元気であり続けていくような未来になるようにとの願いを込めています。	両大会に様々な形で参加することによって飛躍し、そして、未来に向けて大きく羽ばたいていける大会であるように、という想いを込めています。